

令和7年度 秋田支部事業実施結果について



令和 8 年 7 月 8 日
全国健康保険協会秋田支部

令和 7 年度秋田支部 K P I 結果

分野	担当	KPI	R7目標	R7実績	達成度	全国順位 (東北6県順位)	R8目標
基盤的保険者機能関係	業務	サービススタンダードの達成状況	100%	100%	達成	全支部 100%	100%
		サービススタンダードの平均所要日数7日以内を維持	7.00日	4.54日	達成	4位 (1位)	7.00日 (前年度4.54日)
		現金給付等の申請に係る窓口受付率	前年度以下 (6.7%)	6.4%	達成	34位 (6位)	前年度以下 (6.4%)
	レセプト	協会単独でのレセプト点検の査定率	前年度以上 (0.106%)	0.125%	達成	19位 (6位)	前年度以上 (0.125%)
		協会の再審査レセプト1件当たりの査定額	前年度以上 (5,920円)	6,986円	達成	35位 (5位)	前年度以上 (6,986円)
		返納金債権(診療報酬返還金(不当請求)を除く)回収率	前年度以上 (84.17%)	87.00%	達成	3位 (2位)	前年度以上 (87.00%)

令和7年度秋田支部K P I 結果

分野	担当	KPI	R7目標	R7実績	達成度	全国順位 (東北6県順位)	R8目標
戦略的保険者機能関係	保健	生活習慣病予防健診実施率	57.6%	54.6%	未達成	41位 (6位)	60.1%
		事業者健診データ取得率	21.2%	19.0%	未達成	1位 (1位)	21.2%
		被扶養者の特定健診実施率	31.2%	30.1%	未達成	22位 (4位)	33.1%
		被保険者の特定保健指導実施率	38.5%	33.6%	未達成	8位 (2位)	38.5%
		被扶養者の特定保健指導実施率	19.8%	18.8%	未達成	21位 (3位)	20.9%
		健診受診月から10か月以内に医療機関を受診した者の割合	前年度以上 (36.6%)	36.5%	未達成	10位 (1位)	前年度以上 (36.5%)
	企画	健康経営宣言事業所数	1,780 事業所	1,787 事業所	達成	—	1,780 事業所
		ジェネリック医薬品使用割合	前年度以上 (90.6%)	91.6%	達成	8位 (4位)	前年度以上 (91.6%)
		全被保険者数に占める健康保険委員が委嘱されている事業所の被保険者数の割合	58.2%	58.5%	達成	28位 (3位)	58.4%
		健康保険委員の委嘱事業所数	前年度以上 (2,334事業所)	2,332 事業所	未達成	—	前年度以上 (2,332事業所)
体制関係 組織運営	総務	一般競争入札に占める一者応札案件の割合	15% 以下	0%	達成	1位 (1位)	15% 以下

【KPI】

- ① サービススタンダード*の達成状況
- ② サービススタンダードの平均所要日数7日以内を維持
- ③ 現金給付等の申請に係る窓口受付率

目標達成	①	目 標	100%	実 績	参考 全国平均	100%	R8 KPI	100%
目標達成	②		7.00日			5.50日		7.00日 (前年度4.54日)
目標達成	③		前年度以下 (6.7%)			4.0%		前年度以下 (6.4%)

【令和7年度の主な取組】

① サービススタンダードの達成状況

- 申請書の管理や進捗管理を徹底した。

② サービススタンダードの平均所要日数7日以内を維持

- システムを活用した申請書の進捗確認を徹底しグループミーティングで進捗状況の共有を行った。
- 業務量の多寡や優先度に対応するため、職員の業務処理の多能化を進め、業務処理体制を強化することで生産性の向上を図った。
- 書類の不備による返戻を減らし事務処理の効率を上げるため、各種広報や研修会で記載誤りの多い事例の周知を行った。

③ 現金給付等の申請に係る窓口受付率

- 各種広報や研修会、電話相談時等で郵送での申請の周知、案内を行った。
- 退職者の任意継続保険制度利用率が高い事業所に、任意継続資格取得申請の郵送セットを配付した。
- 電子申請導入について、加入者に周知を行った。また、関係団体や社労士会へ協力依頼を実施した。

*サービススタンダード：傷病手当金、出産手当金、出産育児一時金、埋葬料(費)の支給申請の受付から給付金の振込みまでの期間を10営業日以内とする。

【令和7年度の成果と反省点】

サービススタンダードの平均所要日数7日以内を維持

- 事務処理の多能化や効率化、進捗管理の徹底により、申請書の受付から支給までの標準期間(サービススタンダード:10営業日以内)を遵守できた。
また、支払いまでの平均所要日数7日以内を維持できた。

現金給付等の申請に係る窓口受付率

- 申請書郵送セットの大規模事業所への配布や、各種広報誌への掲載、研修会や電話相談時の周知により加入者の負担軽減に努めた。
- 目標(前年度以下)は達成できたが、全国平均よりも申請書の窓口の受付率が高いため、引き続き郵送手続きの利便性の周知や令和8年1月にスタートした電子申請の利用の促進を行っていく。

【令和8年度の施策】

- サービススタンダードの平均所要日数7日以内を維持

【課題】

繁忙期や人事異動等でもパフォーマンスが落ちない事務処理体制の確立

【対策】

申請書の進捗管理を徹底するとともに、定期的な勉強会の開催や、正副担当業務の実施を行うことで、職員のスキルアップや多能化を図り、業務マニュアルや手順書に基づく事務処理を徹底し業務の標準化・効率化・簡素化を促進する。

- 現金給付等の申請に係る窓口受付率の軽減、**電子申請利用率の向上**

【課題】

全国平均と比べ、申請に係る窓口受付率は高く、電子申請による申請率は低い。

(窓口受付率:秋田6.4%、全国平均:4.0% **電子申請[令和8年5月時点]:秋田5%、全国平均:8.2%**)

【対策】

・**電子申請について、各種広報誌やSNS、研修会などあらゆる機会積極的に周知する。また、電話相談や窓口対応時にも同様に案内する。**

・**申請の多い事業所や社会保険労務士、関係団体等へ訪問し、操作方法を案内することで、「簡単・安心・便利」であることをアピールし、利用につなげる。**

【KPI】

- ①協会けんぽ単独でのレセプト点検の査定率
- ②協会けんぽの再審査レセプト1件当たりの査定額

目標達成	①	目標	前年度以上 (0.106%)	実績	0.125%	参考 全国平均	0.128%	R8 KPI	前年度以上 (0.125%)
目標達成	②		前年度以上 (5,920円)		6,986円		10,017円		前年度以上 (6,986円)

【令和7年度の主な取組】

KPI①・②共通

- システム点検の効率化及び点検員のスキルアップ
 - ・ 自動点検精度強化のためマスタメンテナンスを実施した。(毎月)
 - ・ 他支部(主に東北)査定事例、高額査定事例を活用した勉強会を開催し、点検員間での情報共有を図った。(毎月)
 - ・ 点検員との個別面談指導を実施した。(毎月)
 - ・ 外部講師による研修会を実施した。(7月・11月:秋田支部主催医科歯科研修)
- 支払基金との連携
 - ・ 再審査結果における疑問点の確認や支部間差異の解消のため協議会を開催した。(毎月)
- 進捗管理の徹底
 - ・ 状況報告と実績向上に向けた対策を検討した。(毎月)

【令和7年度の成果と反省点】

KPI①・②共通

- 他支部(主に東北支部)査定事例を活用し、勉強会で情報共有を図り点検を行った。
- 支部間差異事例を中心に支払基金と協議を重ねた結果、前年6月より今まで原審どおりであった事例が査定に変更となり、査定率及び1件当たりの査定額は前年度以上となった。

【令和8年度の施策】(KPI①・②共通)

【課題】

- システム点検の効率化及び高点数レセプト点検の更なる強化
- 点検員のスキルアップ
- 審査基準統一化に向けた支払基金との協議

【対策】

- 効果的かつ効率的な点検の推進のため、自動点検マスタメンテナンスを実施するとともに、高額査定事例を共有し、高点数レセプトを中心に点検する。
- 点検員のスキルアップのため、点検員との個別面談指導及び勉強会を毎月実施する。勉強会は東北支部査定事例に着目し、点検員全体で共有を図り、新しい観点を取り入れた点検を行うとともに、外部業者を活用した研修を併せて実施する。
- 支払基金との協議会を毎月実施するとともに、協議結果については点検員全員に共有する。特に支部間差異と思われる事例は積極的に協議を行い、支払基金の審査基準の差異解消を求めながら、協会と支払基金ともに審査精度の向上を図る。
- 内容点検進捗会議を毎月開催し、進捗状況を共有するとともに、課題や対応策について検討を行い、継続的に改善を図る。

【KPI】 返納金債権(診療報酬返還金(不当請求)を除く)の回収率

目標達成

①	目標	前年度以上 (84.17%)	実績	87.00%	参考 全国平均	63.70%	R8 KPI	前年度以上 (87.00%)
---	----	-------------------	----	--------	------------	--------	-----------	-------------------

【令和7年度の主な取組】

- 電話、文書、弁護士名による早期催告を励行した。
- 資格喪失後受診による返納金について、保険者間調整の利用を積極的に案内した。
- 未納者、分割納付者の管理の徹底と納付期限を過ぎた場合の早期催告を励行した。
- 状況報告と実績向上に向けた対策を検討した。

【令和7年度の成果と反省点】

- [業務フローに沿った文書、電話催告等を実施し、進捗管理を徹底した結果前年度を上回ることができた。](#)
- 過年度債権について、効果的に催告等を実施する必要がある。

【令和8年度の施策】

- 納付期限や事跡等の管理を徹底し、電話、文書、弁護士催告等ステップを踏んだ早期アプローチ行い、必要に応じて法的手続を実施する。
また、過年度債権も現年度債権同様、進捗管理を徹底し、特に高額債権に注力する。
- 資格喪失後受診による返納金については、確実な回収が見込める保険者間調整の利用勧奨を積極的に行う。
- 債権進捗会議を毎月開催。進捗状況を共有し、課題や対応策について検討を行い、継続的に改善を図る。

【KPI】 ①生活習慣病予防健診実施率 ②事業者健診データ取得率 ③被扶養者の特定健診実施率

目標未達成	①	目 標	57.6%	実 績	参考 全国平均	59.7%	R8 KPI	60.1%
目標未達成	②		21.2%			7.8%		21.2%
目標未達成	③		31.2%			29.4%		33.1%

【令和7年度の主な取組】

① 生活習慣病予防健診実施率

- [健康管理センター廃止による受診枠減少分の挽回](#)
- 協会主催の集合健診を利便性の高い商業施設等で実施(赤字は新規施設)
尾去沢市民センター(鹿角市)、花輪市民センター(鹿角市)、中央公民館(大館市)、ほくしか鹿鳴ホール(大館市)、ユースパル(秋田市)
にぎわい交流館AU(秋田市)、秋田県立体育館(秋田市)、セリオン(秋田市)、にぎわい交流館AU(秋田市)、旧健康管理センター(秋田市)
秋田テルサ(秋田市)、ホテルIRIS(由利本荘市)、カダーレ(由利本荘市)、アクアパル(由利本荘市)、大曲交流センター(大仙市)、
仙北ふれあいセンター(大仙市)、秋田ふるさと村(横手市)、横手卸センター(横手市)、生涯学習センター(湯沢市)、湯沢文化会館(湯沢市)
- [新規委託契約先の開拓 5機関](#)

② 事業者健診データ取得率

- 労働局、県産業労働部、県健康福祉部、協会けんぽの四者連名文書による事業者健診結果データの取得勧奨
- 支部職員による事業所への事業者健診結果データ取得勧奨
- 外部委託業者による事業所への文書・電話勧奨およびデータ入力
- 事業所の健診受診状況の管理を徹底し、健診結果データを遅滞なく確実に受領

【令和7年度の主な取組】

③ 被扶養者の特定健診実施率

- 協会主催の集合健診を利便性の高い商業施設で実施(赤字は新規施設)

尾去沢市民センター(鹿角市)、いとく大館ショッピングセンター(大館市)、ほくしか鹿鳴ホール(大館市)、中央公民館(大館市)
北地区コミュニティセンター(大館市)、北秋田市交流センター(北秋田市)、能代山本広域交流センター(能代市)、山本公民館(三種町)
男鹿市民文化会館(男鹿市)、道の駅てんのう(潟上市)、イオンモール秋田(秋田市)、西武デパート(秋田市)、秋田テルサ(秋田市)
ナイスアリーナ(由利本荘市)、ポートプラザアクアパル(由利本荘市)、大曲交流センター(大仙市)、県南健診センター(大仙市)
秋田ふるさと村(横手市)、サンサン横手(横手市)、湯沢文化会館(湯沢市)、湯沢文化交流センター(湯沢市)

- オリジナルキャラクター「けんしんくん」を使用したバスラッピング広告による受診啓発
- 大仙市と共同で特定健診とがん検診の同時実施を案内
- 次年度40歳になる方(初めての特定健診対象者)に乳がん自己検診キットを同封した受診勧奨
- 特定健診未受診者に対する受診券有効期限を強調した受診勧奨

【令和7年度の成果と反省点】

- 健康管理センター廃止による受診枠の減少分は、県内外健診機関の尽力や検診車による集合健診の拡大等でカバーできた。
- 健診受診者数は増加しているが、実施率の低さから脱却できておらず、全国と比較しても低順位である。健診環境の改善に向けた更なる取組みが必要
- 協会主催の集合健診の実績
 - 被保険者:142回(前年比+38回) 計4,337人 (前年比+1,876名)
 - 被扶養者: 32回(前年比+5回) 計2,183人 (前年比+65名)
- 事業者健診データ取得の実績
 - 27,168件(前年比 101.0% +267件)

【令和8年度の施策】

① 生活習慣病予防健診実施率

【課題】

健診受診機会の拡大と新しい健診体系の円滑な実施

【対策】

- ・[人間ドック健診の利用促進](#)
- ・[健診受け入れ枠拡大と人間ドック健診参入に向けた健診機関への働きかけ](#)
- ・協会主催の検診車による集合健診の拡大と広報の強化
- ・新規参入健診実施機関の積極的な活用
- ・自治体や関係団体との連携強化

② 事業者健診データ取得率

【課題】

データ取得ルートの開拓

【対策】

- ・健診後、速やかに健診機関からデータを受領できる体制を構築
- ・一定規模以上の事業所へ四者連名による文書勧奨
- ・データ作成が可能な健診機関等の新規開拓

③ 被扶養者の特定健診実施率

【課題】

受診率の向上

【対策】

- ・[経営層へのアプローチ\(事業主からの受診勧奨\)](#)
- ・集合健診の開催場所・日数の拡大(オプション健診含む)
- ・訴求力のある健診受診勧奨広報
- ・[令和9年度より開始する被扶養者を対象とした生活習慣病予防健診・人間ドック健診の周知](#)

【KPI】

①被保険者の特定保健指導実施率

②被扶養者の特定保健指導実施率

目標未達成	①	目 標	38.5%	実 績	参考 全国平均	21.7%	R8 KPI	38.5%
目標未達成	②		19.8%			19.9%		20.9%

【令和7年度の主な取組】

① 被保険者の特定保健指導実施率

- [積極的な健診当日初回実施または分割実施の推進](#)
- ICTを活用した遠隔保健指導
- 特定保健指導対象者が多い大規模事業所への利用勧奨案内
- 初回面談後の即時中断者を減らすため、保健師等研修会や外部委託機関を含む合同研修会を実施
- 特定保健指導実施薬局等を周知するチラシを保健指導案内に同封
- 特定保健指導実施機関の新規開拓

② 被扶養者の特定保健指導実施率

- [協会けんぽ主催の集合健診と特定保健指導の当日分割実施](#)
- 専門業者や健診実施機関以外の委託先を開拓

【令和7年度の成果と反省点】

①被保険者の特定保健指導実施率

- ICTを活用した遠隔保健指導(WEB初回面談)の実績
 - 外部委託 272人(専門機関228人、直営29人、検診車等15人)
- 特定保健指導利用者アンケートは概ね良好な評価
- 特定保健指導外部委託の実績
 - 初回面談数 1,436人 実績評価数 1,244人(前年比 +89人)
- 自営の保健指導者の欠員により、計画通りの実施ができなかった。
- 薬局やクリニックなど利便性が高い実施機関の周知が不十分だった。

② 被扶養者の特定保健指導実施率

- 集合健診当日分割実施の特定保健指導は増加(日数:41日間、実施数:114人、実施率78.1%)したが、目標達成には至らなかった。

【令和8年度の施策】

【課題】

- ・保健指導実施率の向上
- ・外部委託先の活性化

【対策】

- ・[人間ドック健診実施機関による健診当日初回面談の実施](#) ・薬局やクリニックへ誘導する広報
- ・ICT専門機関によるWEB面談の活用促進 ・外部委託先の進捗管理と情報交換

【KPI】 健診受診月から10か月以内に医療機関を受診した者の割合

目標未達成

①	目 標	前年度以上 (36.6%)	実 績	36.5%	参考 全国平均	34.2%	R8 KPI	前年度以上 (36.5%)
---	-----	------------------	-----	-------	------------	-------	-----------	------------------

【令和7年度の主な取組】

- [健診当日、血圧が要治療域以上の方に、健診実施機関から受診勧奨及びリーフレットを配付](#)
- 専門業者による文書・電話での受診勧奨
- 健診案内に「要精密検査」「要治療」判定者の受診を促すリーフレットを同封
- 健康保険委員への広報物に受診を促すリーフレットを同封
- 糖尿病腎症に係る重症化予防事業の推進（大館市立総合病院と協力実施）

【令和7年度の成果と反省点】

- 前年から1.4ポイント減少し、受診率が低下した。全国10位
- 特定健診を受診した被扶養者の受診率が全国22位と低迷
- 血圧に関するリーフレットを要治療域以上の方への受診勧奨に使用を依頼。健診実施機関49か所に約2万枚配付
- 未治療者が多い事業所の事業主の理解と対象者の意識改善が必要

【令和8年度の施策】

【課題】

- 対象者の健康意識が低く、勧奨後の受診率が低い
- 経営者への周知を強化し、再受診に対する理解を向上させる。

【対策】

- 医療機関への受診率向上に向けた取組内容
 - 各種健診(生活習慣病・被扶養者集合健診・事業者健診)時、血圧値が要治療域以上の方と喫煙者に対し、受診勧奨及び禁煙のリーフレット類の配付
- 専門事業者(MHI)による受診勧奨
 - 受診勧奨対象者全員に文書による勧奨(早期受診の必要性を強調した内容)
 - 重症域の方に、文書勧奨後、電話勧奨を実施
- 事業所に対して受診勧奨の協力依頼
 - 受診勧奨を目的とした事業所訪問の実施(経営層をターゲット)
 - 広報内容の充実化(広報誌、メルマガ、健診案内に受診勧奨ポスターの同封等)
- 糖尿病性腎症に係る重症化予防事業の推進
 - 大館市立総合病院と実施

【参考】	収縮期血圧	拡張期血圧	空腹時血糖	HbA1c	LDLコレステロール	eGFR (秋田支部独自事業)
要治療域	160mmHg以上	100mmHg以上	126mg/dl以上	6.5%以上(NGSP値)	180mg/dl以上	60ml/分/1.73m ² 未満
重症域	180mmHg以上	110mmHg以上	160mg/dl以上	8.4%以上(NGSP値)		

※「要治療域」の対象者でも血圧、血糖、脂質のうち、2つ以上に該当すれば「重症域」の扱いとなる。

【KPI】 健康経営宣言事業所数

目標達成	①	目標	1,780事業所	実績	1,787事業所	参考 全国累計	115,407 事業所	R8 KPI	1,780事業所
------	---	----	----------	----	----------	------------	----------------	-----------	----------

【令和7年度の主な取組】

関係団体との連携

- 秋田県トラック協会、聖霊女子短期大学と共同で、「簡単、ヘルシー、美味しい」をコンセプトに健康レシピを作成
- 秋田県PTA連合会と連携し、県北地区の小学5、6年生に子ども健康冊子を送付(47校 約2,500冊)
- 秋田県建設業協会と連携し、たばこへの意識調査を実施
- 健診機関と連携し、検診車のイメージアップに向けたプロモーション動画を作成。YouTubeやデジタルサイネージを利用した広報を実施
- 自治体等主催のイベントに参加し、健康啓発を実施(11のイベントに参加)

健康経営宣言後のフォローアップ

- 事業所カルテを送付し、事業所の健康課題解決に向けてのフォローを実施(健診受診者数10名以上の宣言事業所)
- 宣言後1年以上経過した事業所へ「健康経営宣言取組状況振り返りシート」を送付
→取組状況の振り返りに伴い、宣言項目の定量化・定性を図っていただくことで自社でのPDCAサイクルを回していただくようフォローを実施
- 四季のけんこう(広報紙)の送付と宣言後アンケート等によるフォローアップを実施(アンケートの回答に対して必要に応じ電話等で再フォロー)
- 健康づくりDVD、食品サンプル、血圧計の貸出や健康づくり簡易ポスターを配付
- 標準化が図られていない事業所への標準化移行勧奨を実施(427事業所)

【令和7年度の成果と反省点】

- 健康経営事業所の増加数
 - 登録事業所数(R8.3.31現在) 1,787事業所(前年比 34事業所増)
- 標準化モデルに移行した事業所数(R8.3.31現在) 1,396事業所(78.1%)
- [多くの関係団体と連携し、幅広い年代への健康づくりの啓発ができた。](#)

【令和8年度の施策】

【課題】

- 健康経営宣言のプロセス(事業所カルテの活用の必須化)及びコンテンツ(健診受診率・特定保健指導実施率目標値設定等の必須化)の標準化を図り、事業主と連携した加入者の健康づくり
- 健康経営宣言後の取組継続に繋がるフォローアップ体制の構築
- 関係団体との連携による健康経営宣言事業所数の更なる拡大
- [健康経営推進による各種行動変容の促進](#)
- [こども健康教育の取組推進](#)

【対策】

- 標準化が図られていない事業所へのスムーズな移行勧奨と事業所訪問による健康づくりへの働きかけ
- 取組の振り返りシートやアンケートにより、事業所毎の課題やニーズを把握したうえでのフォローアップ
- [好事例の取組を宣言事業所に横展開し、行動変容につなげる。](#)
- [自治体や秋田県PTA連合会と連携し、児童・保護者への健康づくりの啓発を行う。](#)

【KPI】 ジェネリック医薬品使用割合

目標達成	①	目標	前年度以上 (90.6%)	実績	91.6%	参考 全国平均	90.4%	R8 KPI	前年度以上 (91.6%)
------	---	----	------------------	----	-------	------------	-------	-----------	------------------

【令和7年度の主な取組】

ジェネリック医薬品の使用促進

- 秋田県・東北厚生局・秋田県医師会・秋田県薬剤師会と連携した働きかけを継続
- 県内の医療機関及び調剤薬局に、医薬品実績リスト及び見える化ツール(医療機関等ごとのジェネリック医薬品使用割合等が見える化したもの)を送付(令和8年3月 558医療機関 496薬局)
- 支部ホームページに医薬品実績リストを掲載

バイオシミラー(バイオ後続品)の使用促進

- 関係団体を訪問し、事業趣旨の説明や分析結果の共有、協力依頼を実施(秋田県、県医師会、県薬剤師会、病院薬剤師会、東北厚生局)
- 医療機関を訪問し、分析結果の提供、使用状況や普及に向けた課題の聞き取りを実施(5医療機関)

上手な医療のかかり方

- WEBバナー広告を活用した医療費適正化広報を実施
- 子育て情報誌(ママファミ)への記事掲載

【令和7年度の成果と反省点】

- 引き続き、医療機関、調剤薬局にジェネリック医薬品使用状況の情報提供を行い、理解と協力が得られた。
- バイオシミラーの使用促進について、初めての取り組みであったが、関係団体や医療機関と情報共有、意見交換ができた。

【令和8年度の施策】

【課題】

- ジェネリック医薬品の使用割合について、全国平均に比べ高い水準で推移しているが、引き続き地域の実情に応じた使用促進に取り組む。
- 引き続き、バイオシミラー（バイオ後続品）の使用促進に取り組む。
- 地域フォーミュラリについて、データを活用した関係者への働きかけに取り組む。

【対策】

- 秋田県医師会及び薬剤師会と連携したうえでの県内医療機関及び調剤薬局への情報提供の強化
- 関係団体や医療機関を訪問し、分析結果の提供やバイオシミラーの更なる使用促進や課題について意見交換を実施
- 関係者のニーズに応じて、「地域における医薬品の使用実績データの提供」などを実施

【KPI】

- ① 全被保険者数に占める健康保険委員が委嘱されている事業所の被保険者数の割合
- ② 健康保険委員の委嘱事業所数

目標達成

目標未達成

①	目 標	58.2%	実 績	58.5%	参考 全国平均	55.4%	R8 KPI	58.4%
②		前年度以上 (2,334事業所)		2,332事業所	参考 全国累計	346,949 事業所		前年度以上 (2,332事業所)

【令和7年度の主な取組】

紙媒体による広報の実施

媒体名	対象	部数	回数
健康保険あきた	適用事業所	188,100部	11回(2月除く11か月)
まめだすか	健康保険委員	10,500部	4回(4半期1回)
健康保険はやわかりガイド	年金事務所利用者	2,000部	1回

WEB媒体を用いた広報の実施

媒体名	対象	アクセス数(視聴回数)	備考
支部ホームページ	加入者	約1.5万アクセス/月	
健康コラム・レシピ	メールマガジン登録者 (R8.3.31現在 3,295名)	462回 (メルマガクリック数)	7回(R7.5~R8.3)
「+10(プラステン)」をテーマとした運動動画	加入者 (秋田支部公式YouTube)	17,262回(再生数)	10月~3月(4回)

健康保険委員の委嘱拡大

- 算定基礎説明会、新任担当者事務説明会等での説明や、健康経営宣言事業所のエントリー勧奨

【令和7年度の成果と反省点】

- 年間を通して、紙媒体、WEB、SNSを織り交ぜた広報を展開できた。
- LINEによる情報発信を毎月2回以上実施した。(平均3.4回 集合健診の案内、健康コラム・レシピ、イベント情報など)
- LINEお友だち登録者数:834人(前年比 +733人) 全国と比較してもまだまだ少なく登録者数増加に向けた対策が必要

【令和8年度の施策】

LINE、メールマガジンを活用した広報

【課題】

- [LINEお友だち登録者数の増加](#)
- [「電子申請・けんぽアプリの利用促進」の広報](#)

【取組】

- [事業所宛にDMを送付。広報誌の送付、事業所訪問などあらゆる機会において「登録のQRコード」を配布し、登録を促す。](#)
- 紙媒体とSNSによる広報を組み合わせながら、加入者の関心を高める情報発信

健康保険委員の委嘱拡大

【取組】

- 令和7年度に引き続き、健康経営宣言時に健康保険委員の推薦を同時に行う。
➢ 研修会や健康資材の提供など健康保険委員や宣言事業所の取組支援を引き続き行う。

【KPI】 一般競争入札に占める一社応札案件の割合

目標達成

①	目標	15%以下	実績	0%	参考 全国平均	14.1%	R8 KPI	15%以下
---	----	-------	----	----	------------	-------	-----------	-------

【令和7年度の主な取組】

- 業者への声掛けを徹底した。
- 公告期間や納期までの十分な日程を確保した。
- 複数者からの見積書徴取を徹底した。

【令和7年度の成果と反省点】

- 一者応札案件数 6件中 0件

【令和8年度の施策】

- 昨年度以上に公告期間や納期までの日数を確保
- 複数業者に入札参加への声掛け
- 仕様書の見直し